



齋正機 《秋雲物語》 10F

松坂屋名古屋店南館6階美術画廊

名古屋市中区栄3-16-1

☎052(251)1111

10:00~19:30/最終日~16:00

【出品作家】

齋正機(推薦者) 石崎昭亜、磯部光太郎、漆原夏樹、大塚玲美、岡村智晴、久世直幸、熊谷曜志、阪本トクロー、三田尚弘、芝康弘、園家誠二、楚里勇己、東儀恭子、長沢明、野口満一月、藤城正晴、松岡歩、本地裕輔、山口裕子



長沢明 《アラタマ》 530×455mm



阪本トクロー 《田園》 10F

西洋から油画がもたらされると同時に生まれた「日本画」という概念。それから百年以上を経た現在も、素材、ジャンル、市場のフィールドを同時に示す言葉が、さまざまな議論を呼び続けているのが「日本画」だ。伝統、革新といった形容詞が安易に用いられるのも、現代日本画にまつわる問題のひとつといえるかもしれない。

名古屋の松坂屋で開催される「新日本画研究会展」は、40代から20代までの20名の日本画家によって構成されるグループ展。齋正機氏のかつての教え子や交友関係からメンバーを選定。活動するフィールド、所属などは異なるが、それぞれが己にとっての日本画を独自に探求し、作品制作をもってその成果を世に問いつける作家たちだ。

院展や創画会を軸に活動を続ける東儀恭子、野口満一月、芝康弘、久世直幸、現代アートの世界で高い評価を受ける長沢明、阪本トクローなど、フィールドも表現もメディアも多彩。さらに、出品作家の年代も40代から20代と幅広いことから、現代の日本画の時代性や輪郭を知ることができる展示になりそうだ。

新日本画研究会展

10月15日(水)~21日(火) 無休



久世直幸 《夏の空》 10M



芝康弘 《慈しみの刻》 10F



本地裕輔 《菖蒲》 10P

自ら見つけた日本画の価値観。
新世代の実践者たちの現在。

期待の若手

仮・世界的な再評価が進む具体美術の名坂有子、大英博物館で個展を開催した野田哲也を筆頭に、町田久美、天明屋尚など、ベテランから新世代の注目株までがズラリと登場。